

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和7年度 富山中部高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学びを楽しみ自走する生徒の育成(学力の充実)	
重点課題	①教育目標の実現のため、深い学びを目指した授業を行う。また、他教科と連携し、教科横断的な授業の開発に努める。 ②定期考査を軸として、主体的に学習を進めることができるよう指導助言を行う。	
現状	①授業力の向上を目指して互見授業等を行い、教科別授業研究会の充実に努めている。 ②定期考査期間中の中日に休日が2日間、もしくは3日間の休日が今年度から入る。	
達成目標	①授業力の向上を図るため、互見授業等を行ったり、教科別授業研究会を行ったりする。 探究教育部と連携し、教科横断型授業の互見授業を行う。	②定期考査期間中の休日1日の自主学習の時間 平均1日 8時間以上 (2学期期末考査までの9日間)
方策	○互見授業を全教員に対し公開する。 ○積極的に他科目、他教科の授業を参観する。 ○教科横断型授業のための教材を、他教科と連携して開発する。 ○互見授業終了後、教科別授業研究会を開催する。 ○SSHの取組により開発した探究的な手法を普通教科の授業に導入する。 ○個々の学力や進度に応じた教材について、研究開発をさらに進める。	○担任や教科担当者による個別面接の充実を図り、定期考査の明確な目標を持たせる。 ○読解力・思考力・判断力・表現力等を育むような質の高い作問に努める。 ○定期考査に向けて、各教科より学習のポイントを提示する。 ○新入生合宿で高校での学習法をしっかり身につけさせる。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した Cあまり達成しなかった D達成しなかった

令和7年度 富山中部高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	進路意識の高揚と進路希望の実現	
重点課題	① 広い視野に立ち、自己の将来像に連なる明確な進路目標を見つけさせる。 ② 第一志望をあきらめず、難関大学への進学に向けて主体的に努力できる生徒を育む。	
現状	① 全員が大学への進学を希望しているものの、進路に関する視野が狭いこともあり、志望大学や志望動機が曖昧な生徒も見受けられる。 ② 高い目標を掲げるものの、進路が多様化する時代背景もあるせいか、ほどほどの目標で満足する生徒が増えてきている。	
達成目標	自己の将来についてより広い視野に立って考えることができる生徒を育てる。 ・講演会・大学探訪・海外研修・探究活動を通して、様々な生き方や学問分野があることに気づかせ、そこから自分の進路を描かせる。	難関10大学+国公立大学医学科(以下難関大)への出願者および合格者の割合 ① 3年在籍生徒数に対する難関大出願率 65%以上 ② 3年在籍生徒数に対する難関大合格率 35%以上
方策	○2学年の7月に「アメリカ研修」、8月に「大学探訪」を行う、また、探究活動での講演会などを通じて、視野を広げさせる。大学探訪では、大学生から話を聞き、具体的ビジョンを構築させる。 ○1学年の生徒(および2学年の希望者)に対し進路講演会を行い、自己の将来像について具体的なイメージを持たせるとともに、進路に関する視野を広げさせる。	○面接指導や学年集会および進路に関する行事を通して、高い進路意識を持たせる。 ○担任面接以外に教科面接を効果的に織り交ぜることで、生徒を多面的にとらえ、教科指導につなげる。 ○第1志望への合格を実現させるために、教員全員の体制で添削指導や難関大講座などを展開し、生徒一人一人にきめ細かく支援する。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した Cあまり達成しなかった D達成しなかった

令和7年度 富山中部高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	読書指導・体力の向上	
重点課題	①読書指導を充実させ、図書館及び図書の利活用を促進する。 ②体力の向上に努めさせる。	
現状	①探究活動や授業、進路研究などで資料や情報を収集し利用する機会が増えている。しかし、日常的に生徒が図書資料を検索するまでに至らず、図書資料を利用しているとはいえない。 ②体力の低下が危惧される生徒が増えてきている。	

達成目標	①レファレンス（資料や情報を求める人への支援）を利用した数	②2年次において、持久走の自己最高記録を更新した生徒の割合
	180人以上	70%以上
方策	○蔵書検索システムをオリエンテーションや読書の時間、広報で生徒に周知し、主体的に活用できるよう支援する。 ○探究的な学習活動や授業、生徒の進路研究等と連携し、資料や情報の提供を適宜おこなう。 ○紙媒体に加えてGoogleクラスルームも活用し、より伝わりやすい情報発信をめざす。	○全学年、体育の授業時に、毎時10分間程度のサーキットトレーニングを実施する。 ○前年度の自己記録を参考に今年度の自己目標を明確にし、体育の授業や部活動などで意欲的なトレーニングに結びつける。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した Cあまり達成しなかった D達成しなかった

令和7年度 富山中部高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	学校行事・部活動の充実	
重点課題	①学校行事（競技大会、体育大会、文化祭、コーラスコンクール）を充実させる。 ②部活動をより充実させる。	
現状	①各行事において、生徒会が中心となって企画・運営を行っている。学校行事を成功するかどうかは、生徒会やリーダーの指導と、それ以外の多くの生徒の協力にかかっている。全体的にみると盛り上がりを見せても、一定数、そこに気持ちが向いていない生徒も見られる。 ②部活動には多くの生徒が所属し、意欲的に活動している。それぞれ自己実現や人間的な成長のため、学習と部活動を両立させようと努力している。	
達成目標	学校行事が充実していると感じる生徒の割合 ・各行事後に多角的に見たアンケートを行い、生徒目線の充実度・満足度を図る	②部活動に充実感を得た生徒の割合 *1、2年生部活動加入者を対象にした、2学期終了時のアンケート
	80%	70%以上
方策	○どんな場面に充実感や満足感を持っているのかを評価するとともに、充実感や満足度の低い場面や行事全体の課題点を修正していく。 ○全校生徒が自ら学校行事に主体的に取り組み、行事ごとに生徒自身に人間的成長がみられ、学校全体にいい影響を与える行事づくりを目指す。	○部活動が自律的な学びの場として機能するよう、生徒の主体的な活動を尊重する。 ○限られた時間の中での、効率的な練習や活動を普段から考えさせる。 ○個々の生徒が、学習と部活動のバランスを取りながら活動できるよう、ホーム担任と部顧問が連携を取って指導する。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した Cあまり達成しなかった D達成しなかった

令和7年度 富山中部高等学校アクションプラン - 5 -		
重点項目	学校教育全体を通じた「探究力」の伸長	
重点課題	①外部と連携した課題研究を充実させる。 ②教科横断型授業「中部アカデミックス」を実施する。 ③データサイエンス（DS）に関する授業を実施する。	
現状	①県庁や様々な企業と連携しながら課題研究を行ってきたが、継続的な取組になっていない。 ②これまでに6種類の教科横断型授業が行われた。（国語、世界史、地理、化学、美術、英語） ③探究科目において、情報技術に関する授業を実施している。	
達成目標	①継続的に外部人材と連携しながら、課題研究を行う。	②複数の教科で教科横断型授業「中部アカデミックス」を実施する。
		③1年生ではDS探究（基礎）、2年生ではDS探究（応用）、3年生ではDS探究（発展）の授業計画を作成し、実施する。
方策	○テーマ選びから外部人材に関わってもらう。 ○検証方法や考察の段階でも指導・助言をもらう計画を立てる。	○各教科で教科横断型授業に適する単元をまとめる。 ○教科横断型授業に適する単元のマッピングリストを作成する。 ○教科横断型授業の指導案を作成する。
		○専門家の助言の下、データサイエンスに関する授業計画を立てる。 ○特別授業等を利用して実施し、効果を検証する。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した Cあまり達成しなかった D達成しなかった